

校長室からこんにちは!

No. 5

4月29日

発行者 中田 禎二

みどりの思い出

祖国はGWに入り、これから新緑の鮮やかな季節を迎えます。

そして、最初の祝日が今日「昭和の日」。しかし、私にとっては、今でも自然を慈しまれた昭和「天皇誕生日」と言う方が馴染み深く感じます。

さて、私は30代の頃、県立自然公園の麓にある小規模校に勤務したことがあります。その学校は全国組織の「みどりの少年団」に所属しており、その関係から広島県で開催された「全国植樹祭」に参加することになりました。

会場は少年団ごとに植樹のエリアが指定されており、さあこれから苗木を植えようという時、何と「今上天皇陛下」が「美智子妃殿下」と共においでになったのです。

私はあまりに突然のことで、あまりにも至近距離で、あまりにも親しく子どもに話されるお二人の前で、この現実を受け入れられないまま、ただただ、敬意をもって、しかし心地よい緊張感で佇んだことを今も鮮明に覚えています。

そのお姿を拝見させていただいたからでしょうか。その後、国民とお会いになるいろいろな場面を見る度にその時を思い出すのです。

だからでしょうか、震災の被災者に、正に寄り添うように膝を屈して優しく語りながら思いを共有されるお二人に、涙を流し勇気づけられる人々の気持ちが私なりに分かるような気がします。

陛下は体調が万全でないとは報道されています。それでも妃殿下とご一緒に常に国民の幸せを願って公務にあられる姿に、私達も国の将来を担う子どものために頑張らねばと思います。

校長写真館



今年度第1回目のスポーツテストをアルライアンパークで行いました。

暑さに負けず、自己最高新記録を目指して、50M走とソフトボール投げ・ハンドボール投げに挑む姿に、ドーハっ子の強さの一面を見ました。第2回目が楽しみです。

ちょっとお耳を...

5・6年生が飼っていた「ツルギメダカ」が赤ちゃんを産んだ。

小さな生命が一生懸命水槽に泳いでいる。

それを教え、説明してくれた子どもたちの表情と、大切に世話しているその姿に輝きを感じた。

触れ合う自然が少ないこの国だからこそ、逆に自然への意識が芽生え、感性が育まれる。